

私は石原という名前を知らず、背の高い学生だな、と思っただけである……素直さと大胆さが一緒になっている、特殊の印象だった……そのあとで私は、妙な学生だな、あれは何をやっても成功する人間かも知れない、と考えた。

伊藤整 「石原慎太郎君のこと」

昭和35年（1960）7月 『新鋭文学叢書』月報

また無名の大学生の頃、作家・伊藤整の心に強い印象を焼き付けた石原慎太郎は、程なく「太陽の季節」で芥川賞を受賞し、小説家として鮮烈なデビューを果たした。その後、氏は、小説・映画・舞台・ルポルタージュから政治参加、トランスパック等の外洋ヨットレース、エベレスト登山等、常に、未知の領域に対して飽くなき挑戦を続けた。本追悼展では、文学史上に比類無き〈行動する作家〉として人生を全うした石原氏の生涯を、その著作を軸として辿る。

そうだ、存在とは光なのだ。僕たちもまた光だ。
その生涯がどれ程素早く過ぎることか。
そしてその生涯の一瞬一瞬を^{きら}煌めいて在りたい。情熱が燃焼する輝きで
わが身を彩りながら。

石原慎太郎『君に情熱を教えよう』昭和49年（1974）

◆石原 慎太郎（1932-2022）

■ 神戸市生れ。2歳下の弟に石原裕次郎。父の転勤に伴い、5歳から11歳までの少年期を小樽で過ごす（1937-43）。昭和31年（1956）、第34回芥川賞受賞。昭和41年（1966）末に新聞社の依頼でベトナム戦争を取材、この時の経験が契機となり政治家を旨とせず。昭和43年（1968）参議院議員に当選。以後、政界で活躍しながらも小説・随筆・論説等を発表し続ける。平成11年（1999）から平成24年（2012）まで東京都知事。国政に復帰するも平成26年（2014）政界引退。その後、最晩年まで『天才』『あるヤクザの生涯』などの話題作を発表し続け、亡くなる2週間前までその執筆活動は続いた。令和4年（2022）2月1日逝去。89歳。

◆展示資料

石原慎太郎氏寄贈 石原家旧蔵書籍
石原裕次郎記念館旧蔵資料
龍生書林寄贈 石原慎太郎書籍・石原慎太郎関連雑誌
石原慎太郎氏寄贈 石原慎太郎画〈十代のエスキース〉

◆関連事業【講演】

石原慎太郎の世界と〈小樽〉

講師：亀井志乃（市立小樽文学館長）
令和4年（2022）5月1日（日）14時～15時30分
市立小樽文学館1階研修室 聴講無料 先着40名様（要予約）
*ご予約はお電話にて随時受け付けます。

市立小樽文学館

〒047-0031 小樽市色内1-9-5
（旧日銀 金融資料館向い）

Tel&Fax (0134)32-2388

HP <http://otarubungakusha.com/yakata>

写真提供：文藝春秋

Twitter (@otabun_otaru)

